

Enzo Mari e diecimilamilioni di alberi di sugi

エンゾ・マリーが取り組む100万の1万倍もの日本の杉の木

ENZO MARI AND TEN-THOUSAND MILLION SUGI TREES

杉の木の歴史

日本にしかない杉は学名を「Cryptomeria japonica」といい、隠された日本の財産を意味します。

縄文時代(BC11000 年ごろ～BC300 年ごろ)の鳥浜貝塚(BC9000 年ごろ～BC3500 年ごろ)からも杉の丸木舟が出土(BC3500 年ごろのもの)しており、加工のしやすさから盛んに利用されていたようです。

植林が始まったのは室町時代(1338 年～1573 年)とも伝えられており、神社仏閣を建立する際の構造材としても、周辺に植林をおこない用材の確保を図ってきました。

木目は、柾目が緻密に良く通っており、日本人の美意識にも重なったのかもしれませんが。さらに「まっすぐ」だけでなく、屋久杉や吉野杉の細かくて美しい杣は、とても珍重されてきました。

その他優れた調湿機能や香りなどを活かして、住宅・船・すし桶など、現在に至るまで様々な場面で日本の暮らしと関わり続けています。

寿命はおおよそ 1,600 年と言われてはいますが、なかには屋久島の縄文杉や大王杉のように 3,000 年前後もの間生き続け、太古の世界から歴史を見続けてきたものもあります。

データと現状

日本の国土総面積:377,700km²

うち森林部分 251,500 km² / 林野率 67%

森林全体のうち「杉」の面積(人工林※) 45,000 km² / 国土の 12%

※天然林は不明

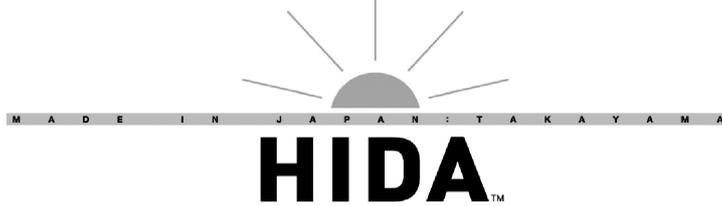
岐阜県は、日本のほぼ中央に位置し、7つの県に囲まれた数少ない内陸県の一つです。飛騨地域は岐阜県北部に位置し、御嶽山、乗鞍岳、奥穂高岳など標高 3000mを超える山々が連なっています。

飛騨地域の面積: 3,330 km²

うち森林部分 3,097 km² / 林野率 93%(2000 年現在)

森林総蓄積量 42,301,000m³

森林全体のうち、「杉」の蓄積量(人工林+天然林) 8,529,000 m³ / 飛騨地域の森林の 20%



Enzo Mari e diecimila milioni di alberi di sugi

エンゾ・マリーが取り組む100万の1万倍もの日本の杉の木

ENZO MARI AND TEN-THOUSAND MILLION SUGI TREES

問題点

日本で「杉」の植林地が多い背景には戦後の農林省の政策があります。第2次大戦によって荒廃した森林に、育成が早くて楽な「杉」を大量に植林していきました。しかも 1957 年には国有林生産力増強計画を企て、建築用材として天然林（広葉樹林）を伐採し、「杉」を中心とした樹種転換を図ってきました。これにより高度経済成長時代は、国有林等から生み出される木材がその成長を下支えしてきました。

ところが、円高による外国材の輸入増加や建築工法の変化は国産材の価格低迷を招き、ドミノ倒しのごとく林業財政が悪化し、それを補う乱脈な伐採事業を促してしまったのです。その結果、森林の育成は後回しとなって山は荒廃してゆくばかりとなり、悪循環に陥ってしまったのです。

こうした末に現在、

- * 森林の荒廃による土石流の発生や、河川の荒廃。更に海岸部への土壌の流失による漁業への被害の増大。
- * 杉花粉等による人体の健康に対する悪影響。
- * 林業家の後継者不足による更なる山の荒廃。
- * 価格の安い発展途上国での伐採による地球環境への影響。
- * 森林の本来もつ生態系への影響。

などの問題があります。

たとえば日本は国土の 67%が森林であるにもかかわらず、木材の自給率はわずか 18%にとどまり、年間およそ 11,478 億円(9,901 百万ドル/2003 年実績・財務省「貿易統計」より)もの木材を輸入しています。カナダの自給率が 303%、フィンランドでは 126%となっており、森林の少ないイギリスでさえ 25%と日本より高い自給率を誇っています。森林資源が大量放置されているにもかかわらず、活用を図れない環境にこそ今日的な日本の森林問題があります。

荒廃していく国土を保全する事は近未来への火急な命題ではないでしょうか。

参考・問い合わせ先

三方町縄文博物館[DOKIDOKI 館]

林野庁

飛騨地域農林商工事務所

Ufficio stampa Italia : Il Quadrifoglio comunicazione - via Guercino, 2 - 20154 Milano
tel. 02.3360.6808/11 - fax 02.3360.6807 - ufficiostampa@quadrifogliocomunicazione.it